

## 歴史資料等の積極収集に関する検討会議議事概要

1 日 時 平成 29 年 7 月 27 日（木）13 時 00 分～15 時 00 分

2 場 所 国立公文書館 3 階特別会議室

3 出席者

（構成員）

〈座長〉 黒沢 文貴 東京女子大学教授  
五百旗頭 薫 東京大学大学院教授  
児玉 優子 学習院大学大学院非常勤講師  
下重 直樹 学習院大学准教授  
細谷 雄一 慶應義塾大学教授

〈アドバイザー〉波多野 澄雄 アジア歴史資料センター長

（国立公文書館） 加藤 丈夫 館長  
福井 仁史 理事  
荒木 潤一郎 次長  
依田 健 統括公文書専門官  
小原 由美子 統括公文書専門官室首席公文書専門官  
小宮山 敏和 統括公文書専門官室上席公文書専門官  
伊藤 一晴 統括公文書専門官室公文書専門官

4 概 要

事務局より前年度の議論を踏まえた論点の整理（資料 1）及び各議題について説明後、質疑応答、討議を行った。構成員等からの主な意見は以下の通り。

**議題 1 前回議事概要の確認（参考資料 2-1）**

- ・ 構成員から意見等がないことを確認し、確定した。

**議題 2 歴史資料等の積極収集に関する当面の取組みについて（資料 2）**

（1）資料収集事業を実施している他機関との関係について

- ・ 今後の積極収集事業の展開イメージとして、外部への支援と他機関との協力関係の構築が挙げられている。資料収集事業を実施している他機関との調整、協議の場を検討する必要がある（下重委員）。
- ・ 昨年度の議事概要等の公開が、他機関と調整・協議を行うひとつのタイミングとなると考える（黒沢座長）。

（2）資料のデジタル複製とデジタル公開について

- ・ 新聞資料をデジタル複製する場合、閲覧室内での公開であれば問題ないが、複製後、即デジタルでの公開となると、著作権の関係で公開が難しいケースもある。即デジタル公

開を前提にするのか、とりあえず保存し、時期を待つというカテゴリを作るのが、検討のポイントになると考える（五百旗頭委員）。

- ・ 国立公文書館が、外部資料をデジタル複製によって収集する場合には、各種権利関係（著作権所有者等）の確認が不可欠であり、また、権利者との間で使用条件を明文化したほうが良いだろう（児玉委員）。
- ・ パイロット事業では、デジタル複製した資料は、当面の間、当館内のみの公開とし、将来的に各種の権利者等との調整が整えばインターネット公開も視野に入れている（伊藤専門官）。

### 議題3 重点的に取り組む指標の選定について（資料3）

#### ○「①文明開化とマスメディアの発展」

- ・ 政府の「明治150年」関連施策と連動するのが良いだろう。（五百旗頭委員）。
- ・ 媒体としてのマスメディアだけでなく、明治期からのマスメディア経営やその関連人物に関する資料も該当すると考える。（下重委員）。

#### ○「⑤戦没者の慰霊・追悼・慰藉」

- ・ 遺骨収集事業等を行っている方の高齢化が進んでおり、当事者の話を聞き取る時間は限られる（五百旗頭委員）。
- ・ 遺族会運動でも、遺族の高齢化が進んでおり、オーラルヒストリーとしての緊急性は高いのでは（下重委員）。
- ・ 本件については、厚生労働省社会・援護局が戦没者遺族等の援護事業を行っていることから、同局に相談する方法もある（黒沢座長）。

#### ○「⑦政党政治の展開」

- ・ 議員の自宅にたくさん資料があり、置き場所に困っていると聞き、積極収集事業の方向性と一致すると感じた（細谷委員）。
- ・ 基本的に個人資料を収集してきた機関はあるが、公党としての組織記録の保存は未だ十分ではない。そのような記録を国立公文書館が収集することは重要である。その際は、キーマンを見つけて接触するという方法が取りかかりとしては、やりやすいだろう（黒沢座長）。
- ・ 政党が作成した刊行物等を古書市場も視野に地道に収集する手法もあると考える（下重委員）。

#### ○「⑨自然災害・戦災と復興」

- ・ 日本赤十字社は調査の対象になるのでは（黒沢座長）。

#### ○「⑩国土の開発」

- ・ 戦後政治に関わった政治家や官僚の資料が民間の法人等に寄贈されている例もある。資料を持ちきれないというケースは見受けられるので、収集対象として調査すると良いのでは（黒沢座長ほか）。

○「⑫男女共同参画社会の誕生と展開」

- ・ 個人でお持ちの資料やオーラルヒストリー等が検討対象になるのだろう（黒沢座長）。

○メルクマールに関するその他の意見

- ・ 第二次世界大戦前の外地官庁についての記録（朝鮮総督府や南洋庁等）は、引揚時に接収されるなどして散逸しているものが多い。これらは「②内閣制度の創設と展開」、「⑦政党政治の展開」、「⑩行政改革と統治のかたち」など、複数のメルクマールに当てはまるかもしれない（下重委員）。
- ・ 積極収集は、短期的には収集の緊急性や遺族の意向が優先されるのではないか。メルクマールはあくまでも中長期的な指標として、独り歩きしないように緩やかにとらえるほうが適当と考える（細谷委員）。

**議題4 その他**

- ・ 波多野アドバイザーより、中国における海外資料収集活動計画について報告があった。

以上